

1900

Ham 2

保存期限		決裁指定		名官		決行指定		第 二 號	
受領番		件名		大臣		主務局長		大 臣	
陸軍省 陸軍部 第七四九號		帝國議會ニ於テ陸軍大臣ノ二月二十六日事件		次官		局長		昭 和 年 月 日	
起元應(課名)		軍事課		政務次官		主務局長		昭 和 年 月 日	
陸軍省 陸軍部 第七四九號		軍事課		參與官		局長		昭 和 年 月 日	
軍事課		軍事課		書記官		局長		昭 和 年 月 日	
軍事課		軍事課		審案 筆記者		局長		昭 和 年 月 日	

政務次官 回付 決裁 前後 連帶

決行(決裁)後 回覽 課名

飛 災 罹

吉田 萬平 74

次官より考謀次長、教育總監部本部長

成農館長

陸軍大臣直轄官衙ノ長官宛通牒案(陸密)

第六十九回帝國議會ニ於テ陸軍大臣ハ二月

二十六日發生ノ事件ニ際シ別冊ノ通説明セ

レタルニ付参考ノ為ニ送付ス

陸密第三七六號

昭和十一年五月八日

外

各局長ニハ参考ノ為ニ送付ス

各局長ニハ参考ノ為ニ送付ス

各局長ニハ参考ノ為ニ送付ス

参考

於議會本會議

二、二六事件ニ關スル説明

二。二六事件説明要旨

第六十九回帝國議會召集ノ機會ニ於テ今次ノ不祥事件ニ就テ若干申述ヘテ事件ノ真相ト軍ノ眞意トヲ明ニシタイト存シマス

今次前古未曾有ノ不祥事ヲ發轂ノ下ニ惹起致シマシテ上ハ痛ク宸襟ヲ惱シ奉リ下ハ民心ニ多大ノ不安ヲ與ヘタルノミナラス特ニ多數國家ノ重臣ニ危害ヲ加フルニ至リマシタコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイ次第ニシテ全軍將士ハ齊シク其ノ責任ノ重大ナルコトヲ痛感シテ深ク恐懼致シテ居ルノテアリマス然シナカラ斯クノ如キ亂行爲ニ加擔シタ者ハ勿論テアリマスカ之ニ類スル矯激ナル思想ヲ有スル者モ亦全軍トシテハ極メテ少數一部ノ者ニ過キナイノテアリマス軍全體ト致シマシテハ一意軍務ニ精進シテ國軍本來ノ面目ハ微動タモ致シテ居リマセヌカラ此ノ點ハ篤ト御諒承

ノ上御安心ヲ願ヒ度イト存シマス

事件ノ梗概ニ就キマシテハ既ニ數次ニ亘ツテ當局ヨリ公表セラレマシタ
通ニシテ之ヲ要約致シマスレハ歩兵第一、第三聯隊、近衛歩兵第三聯隊及
野戰重砲兵第七聯隊等ニ屬スル將兵約千四百餘名カ二月二十六日早朝首
相官邸、齋藤内府私邸、渡邊教育總監私邸、高橋大藏大臣私邸及鈴木侍
從長官邸等ヲ襲撃シタル後永田町附近ニ占據シタノテアリマス
別ニ少數ノ一部隊ハ湯河原ノ牧野前内府宿舍ヲ襲撃致シマシタ
事件勃發ト共ニ東京警備司令官ハ直チニ在京部隊ヲ指揮シテ之カ鎮定並
治安ノ維持ニ任シ應急必要ノ措置ヲ講シ次テ午後三時頃ニハ第一師管内
ニ戰時警備カ下令セラレマシタ翌二十七日ニハ東京市ニ戒嚴令中一部ノ
施行ヲ令セラルルト共ニ戒嚴司令部カ編成セララルルニ至リマシタ

此ノ間東京以外ノ第一師團諸部隊ノ外第二、第十四師團ヨリ各一部ノ兵方カ上京ヲ命セラレ到著ニ從ヒ逐次戒嚴司令官ノ隸下ニ入レラレタノテアリマス

當時叛亂部隊鎮定ノ爲直チニ強行手段ヲ採ルコトハ勿論可能テアツタノテアリマスカ之ヲ採ル時ハ同胞相撃ツ流血ノ慘ハ到底免レ得ナイノミナラス此ノ地域内ハ畏クモ 宮城ニ近ク且皇族王族邸ヲ始メ奉リ各官廳及外國公館ノ外多數住民ノ居宅等ヲ含ミ爲ニ人心ニ與フル影響其ノ他禍害ノ及フ所寔ニ計リ知ルヘカラサルモノカアリマシタ事ハ各位ニ於テモ御相憐シ得ル所ト存シマス茲ニ於テ當局ハ隱忍自重殆ト難キヲ忍ンテ三日間ニ亘ツテ各種ノ手段ヲ盡シテ叛亂部隊ノ幹部ニ對シ其ノ歸順方ヲ極力説得スルニ力メタノテアリマス

事件参加者ノ行動カ許スヘカラサル叛亂行爲テアルコトハ既ニ彼等兵營
出發ノ時ヨリ明ナル事實テアリマス其レニモ拘ラス特ニ之ヲ叛亂部隊ト
公稱セス形式上トハ申シナカラ一時之ヲ原所屬部隊長ノ指揮ニ入レタル
カ如キ各種臨機ノ手段ヲ講シマシタノモ全く當時ニ於ケル叛亂將校ノ昂
奮状態ヲ刺激セスシテ説得ニ依テ悔悟歸順セシメントスル苦心ノ一手段
テアツタノテアリマス

以上ノ如キ當局ノ苦心ニモ拘ラス不幸ニシテ目的ヲ達スルコト能ハスニ
十九日ニハ遂ニ武力ヲ以テ之ヲ解決スルノ已ムヲ得サルニ至ツタノテア
リマス然レ幸ニ兵火ヲ交ワルニ至ラスシテ同日午後ニハ全く其ノ鎮定ヲ
見ルコトヲ得タ次第テアリマス

軍當局ハ本事件ノ重大性ニ鑑ミ深く其ノ原因ヲ探究精査シテ禍根ヲ一掃

スルノ絶對必要ヲ痛感致シマシテ異常ナル決意ヲ以テ徹底的ニ其ノ禍根ヲ清掃センコトヲ期シ自ラ軍警察機關ヲ督勵スルノミナラス司法警察機關等トハ常ニ密接ナル連絡協調ヲ保ツテ全國的ニ且徹底的ニ其ノ捜査ニ當ツタノテアリマス其ノ捜査ノ結果等ニ關シテハ公安其ノ他諸種ノ關係カアリマスノテ後刻秘密會ニ於テ其ノ梗概ヲ申述ヘルコトト致シ度イト存シマスカ此ノ席上ニ於テ特ニ一言申述ヘ度イコトハ今次事件ニ參加致シマシタ下士官兵等ノ命令服從竝之ニ基ク責任ニ就テノ事柄テアリマス」抑、軍隊ニ於ケル命令ノ神聖ト服從ノ絶對性トハ御承知ノ通り實ニ軍紀ノ根源テアリマス不幸ニシテ今次ノ事件ニ於キマシテハ叛亂元將校等カ私ニ命令ヲ濫用シテ冒スヘカラサル命令ノ神聖ヲ冒瀆致シマシタ空前絶後ノ兇事テアリマス乍併之カ爲ニ軍隊ニ於ケル服從ノ絶對性ハ微動タニス

ヘキモノテナイコトハ勿論テアリマス下士官以下カ之ヲ上官ノ命令ナリト信シテ叛亂部隊ニ投シタ者竝ニ其ノ父兄ニ對シマシテ軍當局ハ衷心遺憾ニ存シテ居ル次第テアリマス從ツテ其ノ審理ニ當リマシテハ特ニ之ヲ慎重ニシテ命令ニ基ク行動ノ責任ノ歸趨ヲ明ニシテ苟クモ禍根ヲ將來ニ貽サナイコトヲ期シテ居ルノテアリマス若シ本事件ノ影響ニ依テ崇高ナル兵役義務ノ觀念ニ疑惑ヲ抱カシメ或ハ兵役義務者ニ對スル理解アル國民的支援ヲ減退セシムルカ如キコトカ萬一ニモアリマスナラハ國防上眞ニ由々敷キ大事テアリマス軍當局ハ之ニ對シマシテハ最善ノ努力ヲ拂ツテ萬遺算ナキヲ期シテ居ル次第テアリマス此ノ點モ亦篤ト御諒承ヲ願ヒタイト存シマス

本事件ノ原因動機トシテ蹶起趣意書竝其ノ陳述等ヲ綜合致シマスレハ國

體ヲ顯現シテ彼等ノ所謂昭和維新ノ遂行ヲ企圖シテ居ツタモノノ様ニ述
ヘテ居リマスカ彼等ヲ馳テ此所ニ至ラシメタル國家ノ現情ハ大ニ是正刷
新ヲ要スルモノノ多々存在スルコトハ之ヲ認メラルルノテアリマスカ叛
亂行動迄ニ至レル彼等ノ指導精神ノ根底ニハ我カ國體ト絶對ニ相容レサ
ル極メテ矯激ナル一部部外者ノ抱懷スル國家革新的思想カ横ハツテ居ル
コトヲ見逃ス能ハサルハ特ニ遺憾トスル所テアリマス
此等原因ノ如何ニ拘ラス苟モ 天皇親率ノ軍隊カ其ノ本務ニ悖リテ武器
ヲ以テ 陛下ノ重臣ヲ損ヒ帝都ノ治安ヲ攪亂致シマシタコトハ斷シテ許
スヘカテサル叛亂行爲テアリマシテ洵ニ痛恨ノ極ミテアリマス
爰ニモ述ヘマシタ通り軍ハ本事件ニ鑑ミマシテ深く自省自戒シ深く其ノ
因テ來ル原因ヲ探究精査シテ之ヲ芟除シ更始一新大ニ軍紀ヲ肅正シテ益

國軍ノ本領ヲ擴充シテ其ノ精華ヲ發揚シ以テ上ハ 陛下ノ負托ニ對ヘ奉
リ下ハ國民ノ信賴ニ副ハンコトヲ固ク決意シテ居ル次第デアリマス

1911

參考
極秘

於議會秘密會議

二、二六事件ニ關スル説明

一 事件ニ關スル挿査ノ狀況ニ就テ

事件其ノ後ノ挿査ニ關シマシテ現在迄ニ知り得タル狀況ヲ申述フレハ概
ネ次ノ様テアリマス

一 事件直接參加者取調ノ狀況

事件直接參加者ノ豫審ニ於ケル取調ハ既ニ全部終了シマシテ起訴セラ
レタル者ニ就キマシテハ目下軍法會議ニ於テ取調中デアリマス就中
ル事件參加元將校ハ總員二十名中自決シタル野中、河野兩元大尉ヲ除
ク他ノ十八名ハ悉ク起訴セラレマシテ既ニ去月末ヨリ軍法會議ノ公
判ニ附セラレテ居リマス

二 事件參加元准士官二、見習醫官三、下士官八十九名（元下士官ヲ含

ム）中見習醫官三名元下士官十七名ハ不起訴トナリ其ノ他ハ悉ク起

訴セラレマシテ昨日來軍法會議ノ公判ニ附セラレマシタ

此等ノ者ノ事件ヘノ參加ノ動機ハ必スシモ一樣テハアリマセヌカ一般ニ上官ニ對スル信賴ニ基キ其ノ命令ニ依リ參加ヲ決意シタモノノ様テアリマスカ中ニハ初メヨリ本行動ノ目的ニ共鳴シ其ノ情ヲ知テ自發的ニ參加シタル者モアル模様テアリマス

3. 事件參加兵千三百六十名中起訴セラレタ者ハ二十名ニシテ其ノ他ハ悉ク不起訴トナリマシタ

此等兵ノ事件參加ノ動機ハ何レモ上官ノ命令ニ從ヒ叛亂ニ參與スルニ至リタルモノニシテ初メカラ其ノ情ヲ認識シテ行動シタ者ハ殆ント認メラレナイノテアリマス

久村中元大尉、磯部元主計及元士官候補生澁川善助等ノ常人ハ逮捕後

東京衛戍刑務所ニ收容シ既ニ起訴セラレ元將校ト共ニ目下軍法會議ニ於テ取調中デアリマス

此等ノ者ハ野ニ在テ常ニ叛亂元將校及北一輝、西田税等ト深ク交ツテ相互ニ同志的關係ヲ結ヒ特ニ兩者間ノ連絡仲介ニ當ツテ居タ者ノ様デアリマス

殊ニ村中元大尉ハ本事件ニ就キマシテハ特ニ重要ナル計畫工作ニ參與シタモノノ様デアリマス

湯河原襲撃ニ加ハリマシタ常人五名亦既ニ起訴セラレ昨日來軍法會議ノ公判ニ附セラレマシタ

ニ事件關係者ノ取調狀況

ノ現役將校

事件ニ直接參加セサルモ事件關係者トシテ取調ヘタル者ハ總數二百餘名ヲ算シ就中判亂幫助、同謀備陰謀、辱職及證據湮滅等ノ罪名ヲ以テ既ニ各軍法會議ニ事件ヲ送致セラレタ者ハ三十餘名テアリマス

2 在郷將校

在郷將校ニシテ事件關係者トシテ既ニ事件ヲ送致セラレタ者ハ八名アリマス此等將校ノ大部ハ直接間接叛亂部隊ヲ後援使喚シ又ハ事件ニ關スル流言蜚語ヲ爲シタル等ノ者ニシテ目下東京陸軍軍法會議ニ於テ取調中テアリマス

3 常人

常人ノ中事前ニ情ヲ知ツテ所謂事件ノ黑幕トナツテ叛亂者ト直接間接ニ連絡シ之ヲ使喚後援シタモノトシテハ北一輝、西田稅、龜川哲

也等數名テアリマスカ尙此ノ外事件發生後ニ於テ叛亂者ト連絡呼應シテ蜂起セントシ、或ハ不穩文書ヲ頒布スル等ノ行動ニ依テ共犯又ハ叛亂幫助ヲ爲シタルモノト認メラルルモノハ約五十餘名ヲ算シ目下銳意取調中テアリマスカ既ニ事件ヲ送致セラレタモノハ四十餘名ニ達シテ居リマシテ其ノ範圍ハ相當廣ク且深刻ナルモノカアル模様テアリマス

二 挿査上ヨリ見タル原因竝其ノ準備行動

叛亂元將校等ノ取調ニ於テ蹶起ノ原因竝準備行動ニ關スル陳述等ヲ綜合致シマスレハ彼等ハ我國ノ現状ヲ目シテ元老、重臣、官僚、軍閥、財閥政黨等所謂支配階級カ孰レモ國體ノ本義ニ悖リ皇基恢弘ノ使命ヲ忘レテ私利、私慾ヲ肆ニシ國政ヲ紊リ國威ヲ失墜シタルモノテアルト断定シテ

既ニ欠シキ以前ヨリ國家革新ノ爲ニ北一輝、西田税ト氣脈ヲ通シ專ラ國內ニ於ケル革新機運ノ醸成ニ努メタノテアリマスカ偶々第一師團ノ滿洲派遣ノコトアルヲ知り第一師團渡滿前ニ主トシテ在京同志ニヨツテ兵力ヲ使用シテ事ヲ舉クルニ決シタ模様テアリマス

而シテ其ノ決行期日及大体ノ計畫ハ二月十七日、八日頃栗原元中尉宅ニ集合シテ之ヲ協議シ更ニ同月二十二日再度同所ニ集合シテ細部ノ計畫ヲ決定シ遂ニ二十六日ノ決行トナツタ模様テアリマス

尙ホ右期日決定ノ爲ニハ第一師團渡滿期ノ外ニ三月以降ノ各隊ノ野營演習並同志ノ週番勤務等細部ニ亘ツテ考慮セラレタ模様テアリマスカ特ニ計畫ノ漏洩ヲ防止スルカ爲ニハ集合場所ヲ自宅或ハ聯隊内ニ選フ等細心ノ注意ヲ拂ツタ模様テアリマス

此等將校ニ對シテハ當局トシテハ常ニ嚴密ナル指導ト監視トヲ怠ラナカ
ツタノテアリマスカ彼等ノ劃策カ前述ノ通頗ル細心周密テアツタコトハ
事件ヲ其ノ事前ニ偵知シ得ナカツタ所以テアリマシテ深ク遺憾ニ存シテ
居ル次第デアリマス

三 事件ノ本質ニ對スル觀察ニ就テ

曩ニモ申述ヘタ如ク事件ノ動機竝其ノ原因トシテ叛亂幹部等ハ國體ヲ顯
現シテ彼等ノ所謂昭和維新ノ斷行ヲ強調シテ居ルノデアリマスカ此等ヲ
一貫スル指導精神ヲ仔細ニ分解檢討致シマスナラハ其ノ根基ハ北、西田
等一派ノ主唱スル矯激ナル國家改造思想ヨリ發足シテ居ルモノト斷言シ
テ差支ナイ程深ク且大ナル其ノ影響ヲ受ケテ居ルコトカ看取シ得ラルル

ノヲ洵ニ遺憾トスルノテアリマス

北、西田等ノ思想ハ各位ノ既ニ十分御承知ノ通り極メテ矯激ナルモノテ
アリマス其ノ全貌ハ北カ其ノ在支間ニ著述致シマシタ「日本改造法案大
綱」中ニ克ク之ヲ窺ヒ得ルノテアリマス其ノ趣旨ハ絶對ニ我カ國體ノ本
義ト相容レサルモノテアリマシテ其ノ採用セントスル實行方法ハ三年間
憲法ヲ停止シテ戒嚴ヲ宣告シ彼等意中ノ改造内閣ヲ組織シテ同書ノ所謂
改造方針ニ則ツテ國家ノ改造ヲ斷行セントスルモノテアリマシテ徒ラニ
大權ヲ私議スルノミナラス更ニ戒嚴令下ニ於テ皇軍ヲ利用シテ改造實行
ノ主体タラシメヤウトスルモノテアリマス從テ彼等ハ其ノ活動ノ重點ヲ
先ツ軍隊ノ獲得ニ向ケ機會アル毎ニ軍部關係者ヲ其ノ傘下ニ誘致シ曩ニ
ハ西田稅、澁川善助等ヲ引キ入レ更ニ彼等ヲ介シテ逐次將校特ニ青年將

校或ハ士官候補生等ニ接近シツツ巧ニ「改造法案」ノ趣旨普及ヲ計リ着々其ノ成果ヲ舉ケテ居タ模様デアリマス

我カ純真ナル青年將校カ何故斯ノ如キ矯激ナル社會民主主義者ニ共鳴スルニ至ツタカハ一見洵ニ奇異ニ感セラレルノデアリマスカ彼等ハ其ノ誘致手段トシテ當初ハ飽ク迄現在ノ社會上ノ缺陷ヲ剔抉暴露シテ之カ革新ヲ高唱スルト共ニ所謂國士的主觀偏重ノ思想ノ下ニ巧ニ青年ノ心理ヲ魅了シ來タリタル結果デアルト考ヘラレルノデアリマス

四 戒嚴ノ現狀ト將來ノ見透ニ就テ

事件當初ニ於テハ在京以外ノ部隊ニシテ東京ニ招致セラレタル兵力ハ約十五大隊ヲ算シタノデアリマスカ事態漸次平靜トナルニ從ツテ逐次其ノ大部ヲ原隊ニ歸還セシメタルノミナラス此間戒嚴令第十四條中ノ大部ノ

適用ヲ解除シ更ニ言論集會ノ制限ヲモ緩和シテ大ニ民心ノ安定ニ努メタ
ノデアリマス

現在ニ於キマシテハ第二師團ノ四大隊ノミカ在京スルノミニシテ一般在
京ノ各隊ハ各其ノ兵力ヲ集結シテ主トシテ重要物件ヲ警戒シツツ軍本然
ノ練成ニ努メテ居ルノデアリマス

乍併事件ノ重大性ト特ニ軍法會議ノ進行中トノ關係上民心ニ對スル影響
等ヲ考慮致シマス時ハ戒嚴ハ直接叛亂參加者ニ對スル公判終了迄ハ少ク
モ現狀ヲ維持セラルルヲ適當ト考ヘテ居ル次第デアリマス

五 結 論

以上申述ヘマシタ所ハ本事件ノ全貌ニシテ又當局ヨリ御示シ得ル最大限
度デアリマス事件ハ今尙軍法會議ノ審理途中ニアルノミナラス治安其ノ

他一般人心ニ與フル影響等ヲ考慮致シマスナラハ其ノ取扱ハ特ニ慎重ナ
ラシムル必要ヲ痛感シテ居ル次第テアリマスカラ此ノ點篤ト御諒察ノ上
公開席上ニ於ケル論議ハ御控ヘヲ願ヒ度イト存シマス

陸軍部隊一覽表

(昭和十年十月)

在														東京		地方	
大臣官房														參謀本部			
人事局(三課)														教育總監部		運輸部	
軍務局(五課)														東京警備司令部			
整備局(三課)														近衛師團			
兵器局(三課)														第一師團			
經理局(四課)														元帥			
醫務局(三課)														載仁親王			
法務局														守正王			
軍事調查部(附屬班)														大將林銑十郎		第二師團	
高等軍法會議														同 渡邊錠太郎		第三師團	
造兵廠														同 真崎甚三郎		第四師團	
兵器本廠														同 阿部信行		第五師團	
航空本部														同 荒木貞夫		第六師團	
技術本部																第七師團	
(科學研究所)																第八師團	
(工科學校)																第九師團	
憲兵司令部																第十師團	
軍馬補充部本部																第十一師團	
築城部本部																第十二師團	
經理學校														秩父宮		第十四師團	
軍醫學校														閑院宮		第十六師團	
獸醫學校														梨本宮		第十九師團	
千住製絨所														朝香宮		第二十一師團	
糧秣本廠														東久通宮		第三師團司令部留守部	
被服本廠														賀陽宮		第九師團司令部留守部	
衛生材料廠														春仁王		第十六師團司令部留守部	
侍從武官府														北白川宮		朝鮮軍司令部	
軍用鳩調查委員														竹田宮		臺灣軍司令部	
														李王垠		關東軍司令部	
														李鍵公		支那駐屯軍司令部	